



下関西高等学校 進路だより

令和5年9月号 進路指導部

～実りの秋、読書の秋、そして共通テスト出願の秋～

体育大会も終わり、総合型選抜の出願が解禁となり、いよいよ受験シーズンが始まりました。3年生は今までの成果が本当の意味で問われることとなりますし、その一方で、これからの時間でまだまだ身につけられる学力は山ほどあります。とは言え、残りの時間は限られていますので、闇雲に手をつけることは賢明ではありません。そこで、先日配付された**模試分析を有効に活用して欲しい**と考えています。私も他の先生方の書かれた内容を指導の参考にしたいと思い、全部読みましたが、「**設問文を丁寧に読んで理解すること**」「**不明な語彙はこまめに辞書を引くこと**」「**なんとなく理解できたではなく、明確に理解すること**」「**時間配分を意識すること**」「**普段から日常生活の現象と結びつけて学習すること**」「**本気で自分の解答を書く努力をすること**」など、君たちの現状を踏まえてのアドバイスが多くあり、君たちには当たり前前のことがまだまだ身につけていないと理解できました。ところで、君たちは心理学で使用される**フライミング効果**という言葉を知っていますか？**フライミングとは無意識に記憶したものが、あとの思考や学習に影響する現象**のことです。ちなみに、フライミングは基本的に意識できないため、フライミング効果が発揮されていても自分ではわかりませんが、全ての人が一度はフライミングを経験していると言われています。私も年齢のせいかもしれませんが、職員室での先生方との会話の中で出た「言葉」が授業中に生徒の発表で出てきて、つい反応してしまうことがあります。これもフライミング効果です。つまり、**フライミングとは先行刺激であるフライムが後続刺激であるターゲットの処理プロセスに影響を与える現象のこと**です。詳しい内容は次回以降に掲載しますが、今回、配付された模試分析の冊子をさらっと読んで気になるキーワードに着目するだけでも、今後の学習に良い効果を与えるということが明らかなので、是非、フライミング効果を促進して欲しいと思います。

あわせて、3年生にとっては特に大きなイベントの一つである大学入学共通テストの出願が開始されましたが、今年度の**出願期間は9月25日(月)～10月5日(木)**、**本試験は令和6年1月13日(土)・14日(日)**、**追試験は1月27日(土)・28日(日)**となっています。ちなみに、追試験は①インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス・風邪などを含む疾病や負傷により試験を受験できない者②試験場に向かう途中の事故により試験を受験できない者③両親等の危篤・死亡、自宅の火災等のやむを得ない事由により試験を受験できない者の以上3点に該当する受験生が対象となります。この大学入学共通テストは**各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同**で行っている試験で、2020年度まで行われてきたセンター試験の後継試験として、2021年度入試から毎年1月中旬の土・日曜に一斉に実施されている、国内最大規模の試験です。その規模については、今年の1月に実施された2023年度共通テストは志願者数が51万2,581人、受験者数が47万4,051人、受験率(受験者数/志願者数×100)が92.48%でした。試験実施本部要員、監督者、監督補助者、試験場警備要員等を含めて、当日は約7万人が実施者として共通テストに関わってきましたし、大学入試センターの予算規模ですが、共通テストの検定料と成績通知手数料、大学がセンターに支払う成績請求手数料が収入源となっており、全体の規模は今年度の予算では約120億円が計上されています。以上のことから共通テストのスケールの大きさが理解できると思います。しかも、国公立大学の一般選抜受験者は、ほとんどが共通テストを受験することが必要となっていますし、最近は総合型選抜、学校推薦型選抜でも共通テスト受験を出願条件とする大学が増えてきています。また、多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「**共通テスト利用方式**」を設けています。だから、大学進学を志望する受験生にとって、共通テスト対策は合格に向けて重要なポイントとなります。また、来年度から学習指導要領の変更に合わせて共通テストも大きく変わります。**1点目は新教科として「情報」が導入**されます。**試験時間は60分、出題科目は「情報I」**です。**2点目は国語の試験時間が現行の現行の試験時間より10分長い90分の実施**となりま
(裏面につづく)

す。**3点目は「地理歴史・公民」の科目が変更され、6科目に再編成**されます。2025年度共通テストでの**出題科目は「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「地理総合、歴史総合、公共」「公共、倫理」「公共、政治・経済」の6科目で最大2科目選択できます**。新学習指導要領で選択科目とされている「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」は、必須科目である「地理総合」「歴史総合」「公共」との組み合わせで出題されることとなります。**4点目は数学において科目変更と試験時間の変更**があります。「科目変更」については、**数学①が「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ、数学②が「数学Ⅱ、数学B、数学C」**になります。数学①は「数学Ⅰ、数学A」「数学Ⅰ」のいずれかを選択。数学②は、「数学Ⅱ、数学B、数学C」の出題範囲のうち、「数学B」の2項目の内容（数列、統計的な推測）および「数学C」の2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）のうち計3項目を選択することになっています。少し複雑な内容となっていますので、注意してください。**試験時間は数学①②ともに70分**です。数学②の試験時間が60分から70分に変更されたのは、選択解答する項目数が2から3へ増加するためとされています。理科は大きな変更点はありませんが、基礎科目の教え方が変わり、**4科目（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）が1科目（「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」）にまとめられます**。ただし、受験生の科目選択は現行と変わらず最大2科目。基礎科目はいずれか2分野を選択解答することとされています。外国語（英語）も大きな変更点ありません。「**コミュニケーション英語Ⅰ・同Ⅱ・英語表現Ⅰ**」が「**英語コミュニケーションⅠ、同Ⅱ、論理・表現Ⅰ**」に変更されるだけです。現在の3年生が気になる、既卒者への配慮ですが、2025年度共通テストでは試験の内容が大きく変わるため、**既卒者が不利にならないよう経過措置が設けられる**ことになっています。具体的には新たに導入される「情報」では、現行の教育課程で選択必修科目となっている「社会と情報」「情報の科学」に対応する経過措置を講じるとしています。地歴公民・数学は、現行共通テストの出題教科・科目が経過措置科目として出題されますが、数学②の試験時間は現行より10分長い70分の実施となります。理科は、新教育課程と現行の教育課程の間で扱いが異なる内容につき、必要に応じて既卒生が選択解答可能な問題を出題する場合がありますとしています。共通テストの問題作成は第1委員会（科目単位に20名程の大学教員で構成）が担当していますが、共通テストでは各科目の平均点が50点程度となるように問作することが課せられています。作成された問題は問題作成OB委員会と高校教育関係者等による厳しいチェックを受け、共通テストで受験生が解答した後は**試験問題評価委員会による評価とそれについての評価報告書**が提出されます。

<https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/hyouka/>にアクセスすると令和5年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書（本試験）やそこから過去3年の本試験、追試験について閲覧することができるので一度チェックしてみてください。私は共通テストの価値として、高校の学習指導要領に基づき、教科書なども精査して大学教育の視点から問題が作成されており、受験生に対して大学教育の準備としてのメッセージを出してくれている点が挙げられると思います。高校教育の教材として使用できる良問に数多く出会うことができますので、低学年のうちから共通テストやセンター試験の過去問に触れてみてください。現在、問作についての課題は、問題作成委員400名の調達が困難になってきていることです。年間40日以上大学入試センターで問題作成作業に関わることは大学教員にとって大きな負担だと思われます。しかも、1年分の問題作成に2年かけて追試験と合わせて2セットを極秘に問作することは精神的な負担にもなります。大変な苦勞の末に問作されていることも知っておいてください。共通テストは開始から3年が経過しましたが、共通テスト、センター試験ともに開始された年の平均点は高く、2年目は3回とも下がっています。3年目は少し揺り戻しがあり、易化しましたが、今回はどうでしょう？問作の目標平均点が50点なので、大きく平均点がアップすることは考えにくいと思います。また、それに伴い、合否に関してはますます個別試験の重要度が増していると思われます。また、得点を取りにくいということで、都市部では国公立大学離れが進み、私立大学の志願者が増えています。地方では国公立大学で低倍率や合格最低点が下がった募集単位が以前より多く見られるようになりました。いずれにしても、大学入試は変革の時を迎えており、これについて賛否両論ありますが、君たちの受験に向けて最大限の努力をしてくれているのは間違いないので、前向きに取り組むマインドを持って欲しいと考えています。

（文責・松村）